

害虫とうどんこ病の同時防除剤

うどんこ病、ハダニ、コナジラミ、ホコリダニに!

兼商モレスタン[®]水和剤

「モレスタン」はドイツ・バイエル社の登録商標
キノキサリン系・・・・・・25%
(IRAC:UN FRAC:M10)
毒性：－(毒劇物に該当しない)



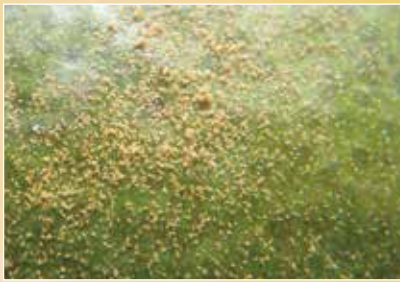
うどんこ病



コナジラミ



ハダニ



サビダニ

各種作物のうどんこ病に効果が高く、コナジラミ類に有効!
ハダニ類に効果が高く、サビダニ、ホコリダニにも有効です。

永い信頼、確かな効きめ



詳しい製品情報は
web製品ページから
ご確認いただけます。



特長

- ◆低濃度で各種作物のうどんこ病を確実に防除し、オンシツコナジラミ、タバココナジラミにも効果があります。
- ◆施設栽培でくん煙や常温煙霧もできます。◆ハダニ類の卵、幼虫、成虫の各ステージにすぐれた効果があり、サビダニにも有効です。
- ◆他剤に抵抗性を持ったダニ類にも優れた効果を示します。

■適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キノキサリン系を含む農薬の総使用回数	
きゅうり	うどんこ病	2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
	コナジラミ類	2000倍			5回以内		5回以内	
トマト	コナジラミ類	1500~2000倍		収穫3日前まで	10回以内		10回以内	
	トマトサビダニ				3回以内		3回以内	
すいか	うどんこ病	2000~4000倍		収穫前日まで	3回以内		3回以内	
メロン								
まくわうり	うどんこ病	2000~4000倍		収穫10日前まで	3回以内		3回以内	
かぼちゃ								
ピーマン	うどんこ病	2000~3000倍		200~700g/10a	収穫前日まで		3回以内	3回以内
なす	うどんこ病	2000倍						
しそ	ハダニ類	3000倍	200~700g/10a	収穫10日前まで	3回以内	3回以内		
にがうり	シノサビダニ	2000倍						
オクラ	うどんこ病	3000倍	200~700g/10a	収穫前日まで	3回以内	3回以内		
いちご	うどんこ病	3000~4000倍						
みかん	ハダニ類	1000~2000倍	200~700g/10a	収穫7日前まで	3回以内	3回以内		
かんきつ(みかんを除く)							チャノホコリダニ	1回
みょうが(花穂)	ハダニ類	3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	3回以内	散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する	3回以内	
みょうが(莖葉)								
はすいも(葉柄)	うどんこ病	1000~2000倍	100~700g/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	10回以内	
食用さくら(葉)								
桑	ハダニ類	2000倍	200~700g/10a	発生初期	10回以内	10回以内		
花き類・観葉植物(カーネーションを除く)	裏うどんこ病	2000倍						
カーネーション	うどんこ病	2000~3000倍	100~300g/10a	発生初期	10回以内	10回以内		
樹木類(こでまり、ポインセチア、やなぎを除く)	ハダニ類	1000倍						
こでまり	うどんこ病	2000倍	100~700g/10a	発生初期	10回以内	10回以内		
ポインセチア	うどんこ病	2000倍						
やなぎ	ハダニ類	1000倍	100~700g/10a	発生初期	10回以内	10回以内		
	うどんこ病	2000倍						

■くん煙法・常温煙霧法

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キノキサリン系を含む農薬の総使用回数
ばら	温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所	うどんこ病	20g/100m ³ (50m ² ×2m)	5L/10a	—	10回以内	くん煙	10回以内
ピーマン			50~100g/10a		収穫前日まで	3回以内		3回以内
きゅうり			100g/10a		収穫3日前まで	10回以内	常温煙霧	10回以内
メロン								

2023年2月現在

△効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- ポルドー液等アルカリ性薬剤との混用は避けてください。
- 水溶性フィルム包装の場合、内袋は濡れた手で触れないでください。内袋はそのまま所定量の水に投入してください。保管中に、内袋に着色が見られることがあるが、本剤の品質に影響はありません。外袋の開封後は使い切ることが望ましいです。やむを得ず保管する場合でもできるだけ速やかに使い切ってください。
- 盛夏の高温時及び、施設内の高温時での使用は、薬害を生じるおそれがあるので、所定範囲内での濃度で使用してください。又、定植直後や幼苗、軟弱苗等には使用しないでください。
- かんきつ等の盛夏高温時での散布は、薬害を生じるおそれがあるので使用を避けてください。
- いちごの収穫間近(果実が白味をおびる頃)での散布は、薬害を生じるおそれがあるので使用を避けてください。
- オクラの着果期以降での散布は果実に薬害を生じるおそれがあるので使用を避けてください。
- コナジラミ類に対しては2令幼虫~成虫に対する効果は低いため、開花期及び新葉展開期の使用を避けてください。
- 本剤をすいも(葉柄)に使用する場合、葉面の薬液溜まりの部分に褐変を生じることがあるので注意してください。
- 桑に対して影響があるので、桑に使用後5日間は蚕に桑葉を給餌しないでください。
- 樹木類に使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、開花期及び新葉展開期の使用を避けてください。
- 本剤の連続使用は、ハダニ類の薬剤抵抗性の増加や薬剤耐性菌の出現等により効果が減るおそれがあるので、過度の連用を避け、他の薬剤との輪番で使用してください。
- ポインセチアに使用する場合は、品種によっては苞葉に薬害を生じることがあるので、苞葉着色後の使用は避けてください。
- 花き類に使用する場合は、開花中の花弁には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。

- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△使用上の注意

- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 - 粉末は皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
 - 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
 - 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いは十分に注意してください。
 - 水溶性フィルム包装の場合、内袋は濡れた手で触れないでください。
 - くん煙及び常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、くん煙及び常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
 - 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜に被害を及ぼさないよう注意してください。
- 魚毒性等…水産動物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、子供の手の届かない冷涼・乾燥した所。水溶性フィルム包装の場合、吸湿性があるので湿気には十分注意し、やむを得ず保管する場合は外袋の口を固く閉じてください。

ハウスなどのくん煙または常温煙霧用として使用する場合

- 煙霧用として使用する場合は専用の常温煙霧機により、所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除等関係機関の指導を受けてください。
- くん煙用として使用する場合は専用のくん煙器(蒸散器)により所定の方法でくん煙してください。
- 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後煙霧の場合は6時間以上、くん煙の場合は12時間以上密閉してください。できれば翌朝までそのままし開放後十分換気して入室してください。
- 作業中及びハウスの密閉中は室内に入らないでください。やむを得ず入室する場合は防護マスク、長袖作業衣、手袋などを着用してください。

- 使用前にラベルをよく読んでください ●ラベルの記載以外には使用しないでください ●小児の手の届く所には置かないでください ●空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください